

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第6学年

【単元名】 「水溶液の性質」（12時間扱い）[小単元] 炭酸水（4時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
(2)ア 次のことを理解するとともに, 観察, 実験などに関する技能を身に付けること。 (イ) 水溶液には, 気体が溶けているものがあること。	(2)イ 水溶液の性質や働きについて追究する中で, 溶けているものによる性質の違いについて, より妥当な考えをつくりだし, 表現すること。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：第5学年A「物の溶け方」

重さの保存, 物が水に溶ける量の限度, 物が水に溶ける量の変化について調べる。

働かせる見方・考え方：水に溶けている物に着目し水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べること。

段階	学習活動	留意点
見通しをもち	1 炭酸水から出てきた気体は何か予想する。 2 炭酸水から出てきた気体が予想した気体であることを確かめる方法を考える。(1と2で1)	<p style="text-align: center;">内容のまとまりの見通しをもつ場面</p> ☞生活経験や既習事項等を基に, 炭酸水から出てきた気体は何か問い, 予想を確かめる方法を考える場を設け, 追究の見通しをもてるようにする。
	子供の願い：炭酸水から出てきた気体が何か確かめたい。	
追究して	3 炭酸水から出てきた気体を集め, 気体の性質を確かめる。(1) 4 二酸化炭素が水に溶けることを確かめる。(1)	<p style="text-align: center;">事象に働きかけ, より科学的な概念を形成する場面</p> ☞出てきた気体の性質を確かめた結果を比べるよう促し, 気体の正体が二酸化炭素であることや, 二酸化炭素が水に溶けることを確かめる。
まとめる	5 炭酸水を加熱したときに, 溶けている物が出てくるか確かめる。(1)	<p style="text-align: center;">学んだことを活用し, 新たな疑問をもつ場面</p> ☞前時までの活動から, 水溶液には固体が水に溶けたものや気体が水に溶けた物があることを確認するとともに, 「溶けたものによって水溶液の性質にどのような違いができるのか」という新たな疑問をもつ。

次単元へのつながり：様々な水溶液の性質を調べる。水溶液に金属を入れたときの様子を観察する。